

1 戦略の基本的な考え方

(1) 戦略策定の趣旨

水田農業を取り巻く環境や社会情勢の変化、これまでの戦略の実行による成果や課題等を踏まえた上で、新たな戦略を策定

(2) 戦略の位置づけ

「持続可能なもうかる水田農業」の実現に向け、生産者、関係の事業者や機関等が共通認識を持って、**本県水田農業の発展に向けた取組を進めるための指針**としての位置づけ

(3) 戦略の計画期間

令和2年度～11年度 ※基本的には、概ね5年毎に見直すこととするが、水田農業を取り巻く情勢の変化などを踏まえ、必要に応じて、適宜、見直す。

2 本県における水田農業の現状(これまでの成果と課題)

(1) 水田作物を売るための環境づくり

<成果>

- 「結びの神」・「伊賀米」等の**県産ブランド米の販路拡大**
- 国が育成した品種など、**業務用米の取引の拡大**
- 「みのりの郷」など、**マーケットイン型の新品種開発**
- 「あやひかり」など、**県産麦の利用の拡大**

<課題>

- ブランド米や業務用米等のさらなる販路の拡大**



「結びの神」・業務用品種の販路拡大を進め、作付け拡大につなげる必要

(2) 生産力・収益力のある水田作物づくり

<成果>

- 小麦単収の過去最高化、新たな排水技術の開発**
- 稲作農家のGAP認証取得の拡大

<課題>

- コシヒカリの1等米比率の向上**など米の品質向上
- 需要に的確に対応した麦・大豆の生産振興と単収の向上**



実需者の評価を高めるため、1等米比率の向上が課題



排水技術の普及が、麦・大豆の単収向上に有効

(3) 持続的に発展する水田農業基盤づくり

<成果>

- 農業法人などの**経営規模の拡大**
- 集落営農の**組織化や法人化の進展**
- ほ場の**大区画化**など基盤整備の進展

<課題>

- 農業経営体への農地のさらなる集積・集約化**
- 地域水田農業を支える家族農業等の継続、後継者への継承**
- 米以外の作物推進のための基盤整備の促進**



地域水田農業の発展には、家族農業の継続が課題

3 水田農業を取り巻く環境の変化と新たな課題

- ・人口の減少と高齢化に伴う、担い手不足の進行
→**農業法人等の経営体の育成**のみならず、水田農業を支える**小規模な家族農業の継続**が重要
- ・**Society5.0やSDGsなど社会潮流の変化**
→**スマート農業技術の実装と多様な担い手の活躍を促進する体制の構築**が必要
- ・**主食用米の需要量の減少と安全・安心なニーズ等のさらなる高まり**
→**需要量の減少や、GAP、有機栽培など消費者の安全・安心ニーズへのさらなる対応**が必要
- ・新型コロナウイルス感染症の影響による新常態のもとでの対応
→**ネット通販での購入や中食需要の拡大に的確に対応**していく必要
- ・自然災害に備えた、防災・減災対策の強化
→**農業用ため池・排水機場の豪雨・耐震化等のハード対策**と、BCP策定など**ソフト対策**が必要

4 本県水田農業のめざすべき姿

本県の**持続可能なもうかる水田農業の姿**として、

- (1) 消費者や実需者のニーズに**的確に対応した水田作物が生産されている姿**
- (2) 県産水田作物がその特性などを生かして、**継続・安定的に販売されている姿**
- (3) **多様な担い手により、水田農業が持続的に展開されている姿**
- (4) 農業経営体が**水田農業を展開する上で、必要な生産環境が整備されている姿**



5 戦略の基本的な取組方向と具体的な取組内容

基本的な取組方向	目標指標		具体的な取組内容
	現状 (R1)	目標 (R11)	
(1) 水田作物の生産対策(商品づくり)	32%	70%	①収量・品質の向上に向けた技術対策の徹底 ・1等米比率の向上に向けた 施肥・防除・土づくり・水管理技術の徹底推進 ・麦・大豆作における 新たな排水対策の導入支援 ②需要に対応した品種の導入 ・品質の高い「 結びの神 」や 業務用向け品種の作付け拡大推進 ③水田における高収益作物の導入 ・水田農業高収益化推進計画等に基づく 野菜、ゴマ等の作付け促進 ④米の需給均衡を図るための生産調整体制の充実
(2) 水田作物の販売対策(販路づくりとブランド化)	10,017t	15,000t	①県産米の戦略的なプロモーションの展開 ・品種の特性に合わせた 明確なターゲットへの販売促進 ②需要の変化への 的確な販売対応 ・新常態のもとでの、 中食の業務用実需者への対応強化 ・生産者による インターネット通販 の取組への支援 ③ 国際認証 などを生かした取引の拡大 ・ 国際水準GAP や 有機JAS の 認証取得と販路開拓への支援 ④需要に対応した米の品種開発 ・栽培しやすく、多収で良食味の 業務用向け等品種の開発
(3) 水田農業の生産体制の確立(担い手づくり)	1,299経営体 (H30)	1,400経営体 (R11)	①地域水田農業の核となる 農業経営体の育成 ・「 人・農地プラン 」の実質化に向けた 集落の話し合いの活発化 ② 小規模な家族農業の継続 に向けた支援 ・ 家族農業後継者等の栽培技術 などの習得に向けた支援 ③ 多様な人材を取り込んだ水田農業の実現 ・地域の 若者、女性、障がい者 などの 参画促進 ・半農半X、ワンディワーカーなど 新たな人材の活躍促進
(4) 水田農業の生産基盤の整備(環境づくり)	244経営体	1,000経営体	① スマート農業技術の実装促進 ・ドローン、ほ場管理システムなど スマート技術の導入支援 ② 土地基盤と防災・減災 に向けた 農業用施設の整備推進 ・ ほ場の大区画化 や 汎用化、農業用水のパイプライン化 の推進 ・ため池等農業用施設の ハード・ソフトによる防災・減災対策実施 ③ 米、麦、大豆の優良種子の安定供給

6 注力するプロジェクトの連携推進

